

精神病院つばき荘

くるみざわしん

登場人物

山上	院長
高木	患者
浅田	看護師

一場

冬。

月曜日の朝。

精神病院つばき荘。

第六病棟。診察室。

机があり、椅子がある。

机の上に電話機。

窓はない。

山上と高木がいる。

高木 この病院は注射の上手な人から辞めてゆきますな。
先生。

山上 …。

高木 先月の人は声が優しくて痛くなかった。ああ来月もこの方だったらいいになあと思っていたら次の週には辞めてしまわれた。今朝来たのはあの浅田。

山上 どなたです。浅田って。

高木 看護師ですよ。我が六号病棟の名物看護師、浅田。

高木は上着の左の袖をめくる。

内出血の青あざが、

高木 一、二、三、四、五、六、七。七ヶ所。どう思われます。

山上 …。

高木 失敗するたびに私をぎろりと睨み付けて謝りもしない。何にも言わないで次の血管を探して、まるで私の血管がわるいかのごとくの仏頂面。これからもまたこんなのが続くのかと思うと。

山上 永いんですか、そのナースは。

高木 三十年です。看護部長の長田さんと同期。

山上 へえ。

高木 本当に御存じないんですか、浅田。

山上 覚えていませんから、いちいち。

高木 三十年いるんですよ。

山上 ナースは沢山いるし、入れ替わりが激しいから。

高木 入れ替わらないんです、浅田は。

山上 ああそう。

高木 …。

山上 顔は覚えていると思いますよ、でも名前まではね。

高木 六号病棟の浅田です。覚えて下さい。

山上 はいはい。浅田ナースね。覚えました。

高木、山上を凝視する。

山上、目をそらし、咳払い。

高木、山上から目をそらさず、

高木 私のことは御存じでしたか。

山上 もちろん。

高木 へえ。

山上 高木さんはそれこそ我がつばき荘の名物、いえいえ、有名患者様ですから。

高木 ほう。

山上 有名ですよ、高木さんは。

高木 どう。

山上 それはまああれですよ。

高木 私も山上先生のごことは存じあげておりました。

山上 それはそれは。

高木 院長ですから、我がつばき荘の。

山上 ええ、まあ、恥ずかしながら。

高木 で、院長の御考えはいかがでしょう。注射の上手な看護師からやめてゆくような状況をどうお考えで。

山上 注射がヘタなナースはねえ、どこにでもありますし。不器用なのはなかなかあれでしょ。

高木 私は看護師個人の技量を問題にしているんじゃないんです。そういう人しか残らないってどういうことな

んだらうか。つばき荘で何かが起きているんじゃないだろうか。その点をお聞きしたいんです。

山上 何か起きていると思うんですか。

高木 それがよくわからないからお尋ねしているんです。

山上 つまらない詮索はしないほうがいいですよ。

高木 詮索じゃありません。事実なんです。注射のヘタな看護師しか残らないっていう。

山上 困ったね。

高木 困りますよ。

山上 困った。

高木 困るでしょ。

山上 こんな話をするためにここに来たんじゃないんだ。

高木 え。

山上 こんな話をするためにここに来たんじゃない。

高木 …。

山上 高木さんとはもつと別の。

高木 こんな話ですか、私の話は。

山上 いや、そういう訳じゃありませんけどね。

高木 そんな言いかたはないでしょ。私だって真剣にお尋ねしているんです。

山上 いえ、だから、あの。

高木 そもそも先生が「どうですか、最近のつばき荘は」ってお尋ねになったから、「注射の上手な人からやめてゆきます」ってお答えしたんですよ。

山上 ええ、だからそこで、話がそれちゃったんです。

高木 え。

山上 たかが採血で七回も針を刺されたらねえ、そりゃあ不愉快だ。痛かったということはお認めしますよ。私だって腹が立つ。でもね。

高木 私は痛かったかどうかを問題にしているんじゃないんです。そうじゃなくて。

山上 そうそう、そうでしょ、そうじゃなくて。私もそういうことを問題にしたかったわけじゃないんです。

高木 え。

山上 何かおかしなことを言いましたか、私。

高木 …。

山上 何でしょう。何かおかしかったでしょうか、私。

高木、山上を見る。

山上、目をそらさない。

高木、山上から目をそらさない。

山上も高木を見る。

にらみ合う二人。

高木、口を開く。

高木 月曜日の朝はパン粥と果物です。デイルームの入口で二百五十CCの紙パックの牛乳と、ビニール袋に二枚ずつ入った食パンを床に置いてあるダンボール箱から拾い上げてプラスチックのトレイにのせ、果物、今朝はリンゴでした、四分の一に割った皮付きの赤いリンゴのつたアルミの皿を看護師さんから受け取って席に着きます。リンゴを皿から出してトレイに置き、皿を空にして、パックを開け牛乳を注ぐ。ビニールを破って食パンを取り出し耳からちぎって白い牛乳に入れてゆく。今は冬ですから牛乳は温めてあります。テーブルの Spoon 立てから Spoon を一本取って、パンを牛乳に浸し、柔らかくなったところを口に運ぶ。甘いんです。粗末なメニューですが人気があって、パン粥が好きだという患者さんは私以外にも多い。今朝のパン粥も温かくて、甘かったです。ところが飲み込めないんです、いつもと同じパン粥なのに。辞めてしまわれたあの、声の優しかった看護師さんの顔が浮かんで飲み込めなかった。そうしたら今日に限って、また一人、また一人って、これまでに辞めていった看護師さんの顔が浮かんで、パン粥が飲み込めない。何度飲み込もうとしてもダメ。無理に飲み込もうとしたら、むせて、吐きだしてしまった。慌てて顔を上げたら、看護師たちが私を見ている。それがみんな注射のヘタな看護師ばかりで。私は立ち上ってトレイを渡すと

デイルームを出て自分の部屋に戻ってしまった。なんでこうなのだろう。どうしてこういうことがおきるのだろう。私たちはとてつもなく大きなものに見放され、置き去りにされているんじゃないだろうか。そんな気がして落着かなかった。寒気がしてガタガタ震えていたんです。そこへ看護師長がきて、山上院長が会いに来ているから急いで診察室に来るようになって言われて来たんですよ。そして先生が「どうですか。最近のつばき荘は」と質問したから、私は率直にお答えしたわけです。この話のどこがどういうふうにそれているんでしょうか。

山上 ええと、それは、あの、あのですねえ。

高木 つばき荘で何が起きているのか。先生は関心がないのですか。

山上 もちろんもちろん。ありますよ。あります。高木さんが我がつばき荘の現状を憂いてくださっていることもよくわかります。私も院長として悩みの種はつきません。

高木 それなら。

山上 経済的側面、辞める人辞めない人、人事はつまりお金ですね。病院の経営という難しい局面をやりくりするためにいろいろね、あるんですけれども、いちいちそういうことで患者様をね、不安にあれですよ、という配慮もね。

高木 先生の悩みの種というのは何ですか。

山上 それはそれ、あれですよ。なかなかこういうところで口にはいけないようなこともありますから。

高木 何なんです。

山上 例えば、そうそう、パン粥ですよ。安くておいしい。人気のメニュー。高木さんも先ほどおっしゃってましたよね。

高木 はい。

山上 そういものを話の糸口にしてですね。

高木 え。

山上 つまりそれですよ。ね。いろいろありつつもなか

なかでしょ、ここは。

高木 ここって。

山上 つばき荘です。

高木 パン粥はどこでも食べられます。つばき荘でなくても。

山上 でもうちが採用して初めて高木さんも召し上がっていらつしやるわけでしょ。毎朝。

高木 月曜日だけです。

山上 え、そうなの。

高木 言いましたよ、私、月曜日の朝って。

山上 あれ、そうでしたっけ。

高木 聞いてなかったんですか。

山上 いえそれはその、こまかいことは。

高木 毎朝パン粥だと思っただんですか。

山上 いえ、すみません。私も知らないことはあるんですよ。今、高木さんのお話を伺ってそうかなと思った次第です。ああ、あの、それはそれとしてですね、高木さんは長い間つばき荘にいらつしやいますよね。

高木 はい。

山上 何年になりますか。

高木 四十年です。

山上 それならもう家みたいなものになっていきますよね、つばき荘が。パン粥も含めて家庭の味、故郷の味というポジションを占めつつある。

高木 ええ、まあ。

山上 安心ですよね、ここにいれば。

高木 そりゃあ、まあ、長くいて、知った顔ばかりですから。

山上 新しい病院に今から移れなんて言われたら困っちゃいますよね。

高木 もちろん。困ります、今さら。

山上 今さらですよね。

高木 はい。

山上 何を今さら。住めば都。

高木 え。

山上 住めば都ですよね。

高木 何の話ですか。

山上 いえいえ。すみません。住めば都。まあまあいろいろあるとは思いますがそういうことだね。こういうお話ができて私もホントに一安心。

高木 …。

山上 何せここはひとつの都で、みんなにとって家みたいなものなんですから。誰かが文句を言ったら壊れてしまいます。

高木 何の話ですか。

山上 パン粥だって背中をバンバンと二、三発はたけば喉を通って胃に落ちます。落ちてしまえばあとはもう。

高木 何の話ですか。教えてください。

山上 いや、君は知らなくていい。

高木 え。

山上 知らなくていい。考えなくていい。私が考える。

君は私の言う通りにすればいい。

高木 …。

山上 お父さんお母さんからお医者様の言うことを聞きなさいと言われませんでしたか。

高木、首をかしげて、山上を見る。

山上は目をそらす。

高木は山上を見る。

山上は見ない。

山上、気を取り直して、